様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月　 １ 日現在

機関番号：３４５２５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2019
課題番号：１５Ｋ０９８７７

研究課題名（和文）新興国赴任者のメンタルヘルス支援体制整備に向けた研究

研究課題名（英文）Development of sustain mental health status of Expatriates in developing nations

研究代表者
勝田　吉彰（KATSUDA, YOSHIAKI）

関西福祉大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：００２５８２２９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：新興国・発展途上国への海外赴任者のメンタルヘルス支援に必要なデータを収集するため、特に経済発展と環境変化の著しいミャンマーにて助成期間中に10回の現地調査をおこなった。その中で、ストレス要因・ストレス対処行動の変化を明らかにするとともに、企業の本社と現地駐在員との間の認識の齟齬や、さらに必要な支援について明らかとなった。これは、発展段階とともに変化することも明らかとなり、今後の日本企業の海外進出にあたって必要とされるデータとして、論文発表にとどまらず、経団連からの出版・経済誌紙への執筆の形で一般社会に直接伝わり役立つ形で還元をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近年の海外赴任は、発展途上国や新興国への赴任が増加し、さらに、赴任者のすそ野も拡大している。この中で、海外勤務で遭遇するストレス要因や支援すべきポイントも、現地の発展段階に応じて変化してゆく。本研究では、短期間で大きく環境変化や政治経済発展が見られるミャンマーをフィールドに継続的調査をおこなった。
　本研究では、ミャンマーにおける勤務者の継続的調査をおこない、発展段階に応じたストレス要因・ストレス対処行動・現地で遭遇する感染症・本社から支援すべき内容などを明らかにし、企業に直接伝わる方法で一般社会に研究成果の還元をおこなった。

研究成果の概要（英文）： We carried out 10 on-site surveys during the period of the grant in Myanmar, a country with marked economic development and environmental changes, to collect data necessary for providing mental health care to expatriates stationed in emerging or developing countries.
These surveys included items on stress factors and stress coping behaviors as well as the influencing factors, such as status of contraction of infectious diseases and trends in the incidence of mental health problems. We further clarified what support from the company's main office is necessary for employees stationed abroad.
We published articles with the data necessary for the future establishment of operations overseas, including how overseas operations would change along with the stages of the company's expansion. We also provided the data to the public in a format that was direct and useful, in the form of articles for the publications by the Japan Business Federation (KEIDANREN) and in economics journals.

研究分野：渡航医学

キーワード：海外赴任者のメンタルヘルス　海外生活のストレス要因　ストレス対処行動　海外赴任者の感染症罹患

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（１）グローバリゼーションとともに、企業の海外進出は拡大の一途をたどり、申請当時 2013 年の海外在留邦人数は 125 万人に達していた（本報告執筆時点の令和元年度版海外邦人数調査統計では 139 万人）。この中で、進出先はかつての欧米中心から中国、そして経済界で「チャイナ・プラス・ワン」と称される東南アジア諸国へと拡大し、さらに将来は「最後のフロンティア」と囃されるアジア後発国やアフリカまで拡大することが予見されていた。

（２）このなかで、海外進出企業は大企業のみならず、中小企業から零細企業、個人事業主に至るまで裾野の拡大が見られ、これは、海外生活を想定しない人生を送ってきた人々の海外赴任が増加することにつながり、現地での適応困難、メンタル問題の発生にもつながっており、あらかじめ現地ではどのようなメンタルヘルス阻害要因がありどのような支援が必要であるのか、海外勤務者・企業（本社）双方に情報やノウハウ提供の必要性があった。

（３）発展途上国・新興国においては、なかでも企業進出が盛んな国においては、急速な経済発展とともに環境が急速に変化する。その「変化」のなかで、現地におけるストレス環境・ストレス対処行動・医療事情・感染症罹患状況がどのように移りゆくのか、今後の新たな進出にあたって経済界含め広く一般社会から情報が求められていた。2011 年に軍事政権が終焉し、将来の有望性から、先進各国からの投資ブームの黎明期にあったミャンマーでは急速な経済発展とそれに伴う環境変化が見込まれ、「変化率の高さ」が本研究のフィールドとして期待された。

２．研究の目的

（１）現地在留邦人の生活パターン・ストレス要因・ストレス対処行動・メンタル不調発生状況が、企業進出規模の変化・経済発展の各段階によってどのように変化するのか経時的に明らかにする。

（２）（１）で得られた所見に対し、企業側にどのような支援が求められているのか、企業側に不足している視点は何かを明らかにし、経済界・一般社会にノウハウとして提供する。

（３）現地における精神科医療の現状および変化を経時的に明らかにするとともに、現地医療の側に対してノウハウの提供をおこなう。

３．研究の方法

ヤンゴン現地にて年２回×５年間の継続的定点調査をおこなった。

（１）日本人会関係者に対して質問紙調査を毎回おこない、ストレス要因・ストレス対処行動・感染症罹患状況・企業や日本国内一般社会に対しての主張、について継続的に調査した。

（２）日本国大使館・貿易振興機構（JETRO）現地事務所・国際交流機構（JICA）現地事務所にて継続的に聞取り調査をおこない、発展段階に応じて生じるビジネス上・生活上の問題点や現況について情報収集した。また、現地医療機関（LEO medicare, Victoria Hospital, Yangon general Hospital）を継続的訪問し、在留邦人の受診状況について動向を調査した。

（３）現地大学関係者（Defense Services Medical Academy, Yangon University MedicineⅠ, Myanmar Mental Health Association）と定期的交流、情報交換をおこなった。

４．研究成果

（１）ストレス要因

現地のストレス要因は、進出段階・経済発展段階とともに変化することを明らかにした。即ち、発展初期にはインフラ関連（通信インフラ・交通インフラ・医療インフラ・居住施設）および、現地人がストレス要因の多くを占めた。その中でも、インフラ関連は最初期には通信インフラの占める割合が多かったが、本研究３～４年目より交通インフラや医療インフラの占める割合が増加した。これは、発展段階がすすむとともに交通量が増加したこと、駐在者の裾野が広がり海外生活初心者が増加するとともに医療インフラの遅れがより強くストレスと認識されるようになったことが理由と思われた。

現地人（ミャンマー人）をストレス要因として挙げる割合は 2014 年から 16 年にかけて減少した。これは、当初、現地人にかかわる適切な情報が得られなかったことが要因と思われた。企業進出がすすむ以前には現地に入るのは行政関係や研究者などに限られ、彼らの手による成書には好意的な記述がほとんどであるも、実際に進出すると契約不履行や労働争議などに直面し、また私生活面でストーカー体験や家主による突然の家賃吊上げに直面するなど、進出前のイメージとの違いがストレス要因として認識されたが、その後、進出がすすみノウハウが蓄積するとともにストレス要因としては減少に向かった。

したがって、進出当初はインフラ不備に対する生活支援を、また、現地人に関する文化人類学的知見の提供が求められることが明らかになった。

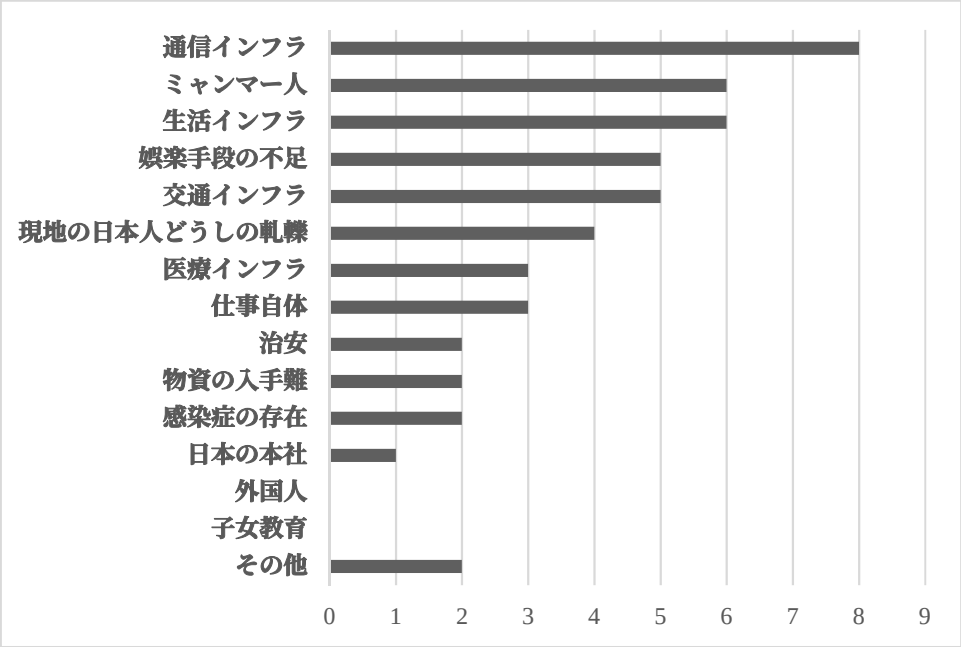

図１　予備研究時点（2014 年）のストレス要因

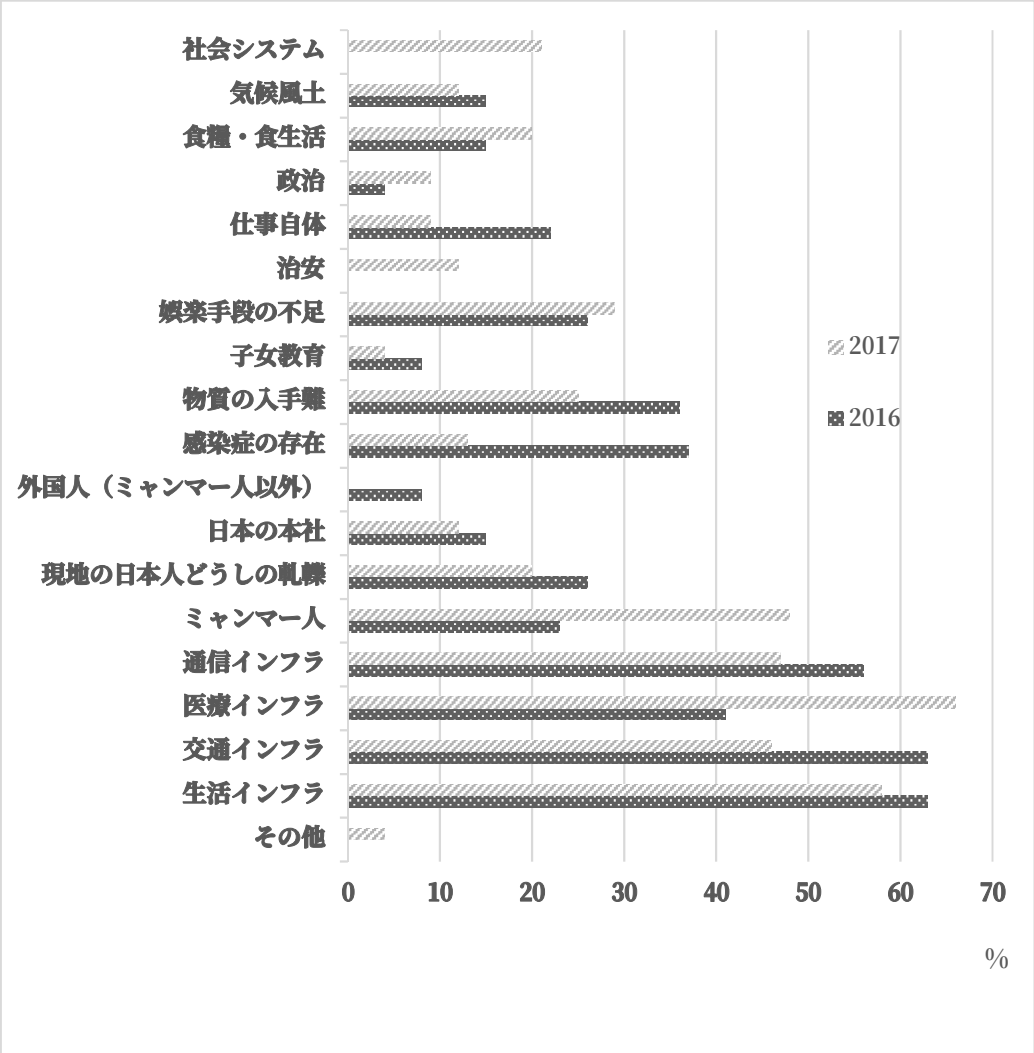

図２　2016-17 年時点のストレス要因

（２）邦人社会の規模との関連

在留邦人数が増加し 2000 人を越えた時点から、ストレス要因として「日本人」を挙げる割合が増え、パワハラ体験、過度の要求、価値観の衝突などの軋轢が表面化していった。報告者の前職（外務省医務官）での経験では、現地邦人社会の規模が小さい国よりも、中等度に大きな国の

方が邦人間の人間関係を原因とするストレスが大きい印象を持っていたが、それが邦人数 2000 人規模を境にストレス増加要因となることが確認された。したがって、邦人社会の規模により、特に海外生活初心者に対してはあらかじめの情報提供が求められることが明らかになった。

（３）ストレス対処行動

ストレス対処行動は、「インターネット」「旅行（国内／国外）」「飲酒（単独／複数）」が主要なストレス解消手段と認識された。インターネットは、ネット環境の整わない初期からコンスタントに多く、娯楽の無い環境では唯一のストレス解消手段といっても良い状況であった。旅行は進出初期では国外旅行が多く、苛酷な環境では休暇を国外で過ごすことが主であったが、その後 2015 年頃から国内旅行の割合も増加がみられた。飲酒は、進出初期は単独での飲酒が多く、その後、邦人社会のネットワーク形成とともに 2015 年頃より複数での飲酒が増加した。しかしながら、単独・複数をあわせた飲酒全体ではコンスタントに多数を占め、アルコール関連問題の発生が懸念された。

（４）現地医療への情報提供

現地精神科医療に対する情報提供をおこなった。医療関係者とは訪問の都度、情報交換の場をもったほか、現地ヤンゴンで開催された学会にて招待講演１回、シンポジスト１回を務めて日本の産業精神保健のノウハウを中心に講演とおこなった。

（５）成果物

「途上国」進出の処方箋　～医療、メンタルヘルス・感染症対策～　（経団連出版）を刊行した。これは海外進出企業の本社および海外勤務者を対象に、本研究で得られた成果を中心に、途上国･新興国進出にあたり必要なノウハウや支援について報告･情報提供をおこなうものである。経団連出版から刊行することにより、この研究成果から得られる情報を必要とする企業に直接情報が届くことを目指した。

また、共同通信系の海外勤務者向けメディアであるＮＮＡカンパサール紙では、本研究の学会発表（産業衛生学会）の取材を受けたほか、１年間の連載を担当して海外メンタルヘルスの知見および支援ノウハウについて還元をおこなった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計11件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 勝田吉彰	４．巻 12
２．論文標題 「最後のフロンティア」進出のストレス要因と求められる支援―ミャンマーにおける定点調査４年目の報告―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本渡航医学会誌	６．最初と最後の頁 63-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 勝田吉彰	４．巻 4918
２．論文標題 朝鮮半島情勢の変化に備え医学界が把握しておくべきこと	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本医事新報新報	６．最初と最後の頁 24-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 勝田吉彰	４．巻 12
２．論文標題 ヒアリのリスクコミュニケーション　～21回の取材対応を通じて見えてきたこと～	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本渡航医学会誌	６．最初と最後の頁 20-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 勝田吉彰	４．巻 46
２．論文標題 ミャンマー精神科医療の現状と課題　～4th Myanmar Mental Health Conference演題から見えてくる現実～	５．発行年 2017年
３．雑誌名 臨床精神医学	６．最初と最後の頁 483-486
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 勝田吉彰	４．巻 11
２．論文標題 海外赴任者研修では何が求められているのか	５．発行年 2017年
３．雑誌名 日本渡航医学会誌	６．最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 勝田吉彰	４．巻 4866
２．論文標題 ヒアリの上陸に備えて医師が知っておきたい基礎知識	５．発行年 2017年
３．雑誌名 日本医事新報	６．最初と最後の頁 18-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 勝田吉彰	４．巻 9
２．論文標題 ミャンマー在留邦人を取り巻くメンタルヘルス環境～2015年の現状～	５．発行年 2016年
３．雑誌名 日本渡航医学会誌	６．最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 勝田吉彰、茅野龍馬	４．巻 24
２．論文標題 海外在留邦人メンタル支援　－グローバルヘルスとUHC(Universal Health Coverage)の視点からー	５．発行年 2016年
３．雑誌名 産業精神保健	６．最初と最後の頁 354-357
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 勝田吉彰	４．巻 10
２．論文標題 渡航医学のリスクコミュニケーション：ジカウイルス感染症を含めて	５．発行年 2016年
３．雑誌名 日本渡航医学会誌	６．最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 勝田　吉彰	４．巻 4764
２．論文標題 デング熱。チクングニヤ熱など媒介蚊対策における宗教関係者の意識調査	５．発行年 2015年
３．雑誌名 日本医事新報	６．最初と最後の頁 44-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 勝田吉彰	４．巻 13
２．論文標題 改正入管法における外国人労働者大幅増にあたり産業保健現場で予見される課題～地方における考察から～	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本渡航医学会誌	６．最初と最後の頁 131-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計16件（うち招待講演　2件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 勝田吉彰
２．発表標題 新興国・途上国赴任者のメンタルヘルス環境変化 ～ミャンマー定点調査４年目の報告～
３．学会等名 日本精神神経学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 勝田吉彰
２．発表標題 「最後のフロンティア」進出のストレス要因と求められる支援～ミャンマー定点調査４年目の報告～
３．学会等名 日本渡航医学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yoshiaki KATSUDA
２．発表標題 Mental Health and the Workplace-Structure in Japan-
３．学会等名 World Congress of Asian Psychiatry (WCAP2018)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 勝田吉彰
２．発表標題 ミャンマー精神科医療の現状と未来
３．学会等名 日本渡航医学会（グローバルヘルス合同大会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 勝田吉彰
２．発表標題 ミャンマー勤務者のメンタルヘルス
３．学会等名 日本産業衛生学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 勝田吉彰
２．発表標題 ヒアリのリスクコミュニケーション
３．学会等名 日本渡航医学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 勝田吉彰
２．発表標題 日系企業の新たな進出で起こる変化～ミャンマー在留邦人をとりまくメンタルヘルス環境の変化を例に～
３．学会等名 日本産業精神保健学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 勝田吉彰
２．発表標題 急激に変化するミャンマー在留邦人を取り巻くメンタルヘルス環境 ～２０１５年の現状～
３．学会等名 日本精神神経学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 勝田吉彰
２．発表標題 海外在留邦人の健康支援に使える資源の考察 ～医療体制、リスクコミュニケーション～
３．学会等名 日本産業精神保健学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 勝田吉彰
２．発表標題 ジカウイルス感染症を含めたリスクコミュニケーション
３．学会等名 日本渡航医学会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 勝田吉彰
２．発表標題 海外赴任者研修に何が求められるか
３．学会等名 日本渡航医学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 勝田吉彰
２．発表標題 日系企業の新たな進出で起こる変化　～ミャンマー在留邦人をとりまくメンタルヘルス環境の変化を例に～
３．学会等名 多文化間精神医学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yoshiaki KATSUDA
２．発表標題 How to perform checks and improve employees' psychological environment- Introduction of a new stress check system in JAPAN -
３．学会等名 Myanmar Mental Health Conference（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 勝田　吉彰
２．発表標題 東南アジアにおける邦人メンタル事情
３．学会等名 日本精神神経学会／WPA Regional Congress Osaka Japan 2015（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 勝田　吉彰
２．発表標題 東南アジア勤務者のメンタルヘルス～チャイナ・プラスワン諸国の実状～
３．学会等名 日本渡航医学会
４．発表年 2015年

１．発表者名 勝田　吉彰
２．発表標題 ミャンマー在留邦人と精神科医療の現状2015
３．学会等名 多文化間精神医学会
４．発表年 2015年

〔図書〕　計3件

１．著者名 近利雄、三島伸介、勝田吉彰	４．発行年 2018年
２．出版社 南山堂	５．総ページ数 306
３．書名 トラベル＆グローバルメディスン	

１．著者名 勝田　吉彰	４．発行年 2015年
２．出版社 エネルギーフォーラム社	５．総ページ数 195
３．書名 パンデミック症候群　国境を越える処方箋	

１．著者名 勝田吉彰	４．発行年 2020年
２．出版社 経団連出版	５．総ページ数 206
３．書名 「途上国」進出の処方箋	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考